

入学前教育と日本語検定の親和性

－入学前教育で日本語検定を活用－



学校法人東洋大学
学長室学長事務課
阿部 佑 氏

本学では推薦入学者対象とした入学前教育において、e-learning化した日本語検定の教材を10週にわたり提供しています。目的は、①学習習慣を身につけること、②学習モチベーションを高めること、そして③学力の底上げを図ることです。

①については9割の受講生が脱落することなく最後の最後まで学習を終えることができました。これは他の科目と比しても高い結果で、満足度も非常に高い結果となりました。

②については記述（入力）式の問題もありe-learningでの実施に不安もありましたが、間違えても正解するまで入力して回答する必要があるため、かえって繰り返し学習に繋がり学習時間が他の科目より長く確保されていました。学習モチベーションは終始高く、入学後から就職活動までの間に2級を目指したいという受講生も多くいました。中長期的な学習モチベーションにも期待をしています。

③学力の底上げについては、およそ100名の受講生が受検した学習終了後の準検定において、全国平均を大きく上回る合格者が出たことから効果があったと考えています。また、過去の受講生から2年次インターンシップ派遣者に選抜された学生が出るなど、学生になってからも活躍している元受講生を見かけるようになりました。

受講生には「敬語」を学んだことが強く印象に残ったようですが、日本語検定では「言葉の意味」など、生活の中で誤ったまま使用しても中々指摘されないことを学ぶこともできます。これらのスキルは社会人になってからこそ重要と考えています。

高校生のうちに日本語検定に触れ、社会人になる自分を意識して学習を続けられるよう情報提供をしつつ、入学前教育において日本語検定の教材を活用し続けていく予定です。